

また、介護されている側と喧嘩しちゃって少し一呼吸置きたいとか…。

**高橋** そのために、電話の受け付けもなるべく温かく、柔らかく、すぐ伺いますというような対応をしています。

**市長** やはり在宅介護って家庭が崩壊するような事例も少



HIDEAKI TAKAHASHI

高橋 秀明さん

これまでに特別養老ホーム福祉士・介護士として勤務し、現在はケアサブシステムズ株式会社に訪問介護・居宅事業部の部長を務める。

**市長** そうですか。それは嬉しいことです。

**高橋** 事情があつて勤務できない時には連絡をもらえれば代わりの人が訪問できる体制にしています。介護SOSの「360・5524（ゴーにじゅうよじかん）」という電話番号も非常に浸透してきました。

**市長** ありがとうございます。

**三人** ありがとうございます。

んに行きたいとか、切羽詰まった状態の人が結構いらっしやますね。

**高橋** 例えば息子さんが仕事の都合で、親の排せつの介助、食事の介助をしてほしいとか、娘さんが外出するのでその間見守ってほしいとか。

**市長** そうですね。私は日常的なケースで、介護の手助けが必要なときに利用してほしいと考えています。例えば、介護に疲れたとき。会話を元気もない、たまには半日ぐらいゆっくりしてほしいとか。

なくないですね。

**市長** そうですね。1日、2日温泉に行つて休みたいとか、自宅で介護しなくて済む時間がほしいとか、人間だからあると思うんですよ。そんなときに介護SOSサービスを利用してほしい。1時間に自己負担が250円、午前中なら1000円で、残りは市が負担させていただけます。宿泊については1泊2000円、自宅までの迎えを希望する場

合には3000円が自己負担です。介護している人たちが社会全体で支えようという考えです。

**介護SOSの現場から**

**市長** 若者は、介護の仕事について暗いイメージを持っているようですが、実際はそんなこともないですよ。

**市長** そうですね。私は介護保険制度が始まる前からこの仕事をしていました。現在は本当に働く環境も良くなっていると思いますね。でもボランティア精神の心がないとやっぱりこの仕事はできないかなって思います。お給料だけではできない仕事だなんて。まあ、お給料以上の仕事を私たちがした分は「徳」を積んでると思つて仕事をさせていただいているんです。

**市長** 富澤さんも同じ思いで

すか？

**富澤** はい。感謝の言葉をいただくとすごく嬉しいんですよ。

**市長** 何しろお相手は人生の大先輩ですから。職員にも「学ばせていただいているんですよ」ってお話するんです。

**市長** 本場に立派なことです。富澤さんと富澤さんは代替勤務時間の割り振りなども決まっているんですか？

**富澤** はい。シフト制の勤務で働きやすいと思います。

**高橋** 事情があつて勤務できない時には連絡をもらえれば代わりの人が訪問できる体制にしています。介護SOSの「360・5524（ゴーにじゅうよじかん）」という電話番号も非常に浸透してきました。

**市長** そうですか。それは嬉しいことです。

**三人** ありがとうございます。



TOMIKO MINEGISHI

峰岸 とみ子さん

経験豊富な介護福祉士・介護支援専門員。現在はケアサブシステムズ株式会社で介護SOSサービスを運営する「訪問介護ステーションわかば高崎事業所」の管理者兼サービス提供責任者・運行管理者として勤務。

合には3000円が自己負担です。介護している人たちが社会全体で支えようという考えです。

**介護SOSの現場から**

**市長** 若者は、介護の仕事について暗いイメージを持っているようですが、実際はそんなこともないですよ。

**市長** そうですね。私は介護保険制度が始まる前からこの仕事をしていました。現在は本当に働く環境も良くなっていると思いますね。でもボランティア精神の心がないとやっぱりこの仕事はできないかなって思います。お給料だけではできない仕事だなんて。まあ、お給料以上の仕事を私たちがした分は「徳」を積んでると思つて仕事をさせていただいているんです。

**市長** 富澤さんも同じ思いで



TOMIKO TOMIZAWA

富澤 富美子さん

平成17年からケアサブシステムズ株式会社で介護福祉士として勤務。現在は、介護SOSサービスを運営する「訪問介護ステーションわかば高崎事業所」で、サービス提供責任者兼訪問介護員を務める。



**市** は、全国でも類を見ない高齢者福祉の取り組み「介護SOSサービス」を始めました。他に介護を頼める人がいないときや介護疲れで休みたいときなどに利用してもらえるサービスで、24時間365日対応しています。今回は、介護SOSサービスに関わる人たちに話を伺います。

**市長** 現在、介護は全国的に問題となっております。家族を介護するため仕事を辞めざるを得ないような、いわゆる介護離職の問題が指摘されていますが、介護に疲れて家庭が崩壊してしまうような事例が非常に多い。日本の家族制度が崩壊するんじゃないかって思うくらい切羽詰まった問題です。介護保険だけではちよつと無理がある。少しでも手助けできるようなシステムが必要だと考え、今年4月から、電話一本で専門家に来てもらえる「介護SOSサービス」を始めました。

**高橋** 本場に素晴らしいことだと思いました。

**市長** ケアサブシステムズさんが市内の全地域をカバーしてくださるということを実現しました。全国で一番進んだシステムだと私は思っているんですよ。

**高橋** これまで24時間対応するサービスには着手できなかったのが正直なところなんです。登録ヘルパーの中には、まだ子どもが小さい、親を介護している、という人もいま

すから。でも今回、こうした人たちの理解が得られたことから介護SOSサービスの運営が実現しました。

**市長** ありがたいですね。峰岸さんと富澤さんは、電話を受けたらすぐに依頼者宅に伺うんですよ。

**市長** はい。電話を受けるのにドキドキしていますが。

**市長** 介護というものは通常、何回か会つて人間関係を築くものですが、介護SOSの場合には基本的に知らない家庭に赴く。だからこのシステムに携わる皆さん、そして訪問される側のお年寄りのことが心配でした。

**高橋** 安心してもらえるよう、依頼を受けると2人1組で伺うことにしています。

**市長** なるほど。富澤さんは実際に依頼を受けましたか？

**富澤** はい。急に入院するこ

とになったという独居の高齢者からの依頼でした。パジャマが無いので自宅から取ってきてほしいということで。留守宅に伺うのがちよつと不安でした。

**高橋** その点、2人1組となつて対応することで、利用者もヘルパーも、お互いに安心できると思います。

**介護の手助けが必要なとき 日常的なケースで利用を**

**市長** 皆さんが関わつていて、在宅介護している人はどんな人が多いのでしょうか。

**市長** 家庭によって本場にさままです。ご主人であつたり、奥様であつたり。嫁いだ娘さんも多くいますね。

**市長** 介護をしていて精神的に疲れ切つてしまつている人も多いのではないですか？

**市長** 介護者自身がお医者さ



Mayor KENJI TOMIOKA

富岡 賢治市長

今年度から始まつた介護SOSサービスをはじめ、高齢者あんしんセンター、高齢者配食サービスなど、全国でも類を見ない地域に根差した福祉行政に取り組んでいる。

# 全国初！ 介護SOSサービス



先進的な取り組み  
介護SOSサービス